

2003年3月1日

上智大学アンコール遺跡国際調査団の活動概要(2003年～2004年)

上智大学アンコール遺跡国際調査団長：石澤良昭（上智大学教授）

上智大学アンコール遺跡国際調査団は1980年以来カンボジア王国政府（APSARA）と協力しながら「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡保存修復」を哲学に掲げ、アンコール遺跡の調査・研究・修復保存活動を続けています。2003年度は3回にわたる調査団を現地に派遣いたしました。調査団は12年前からカンボジア人保存官候補の現地研修・実地訓練を続けてきましたが、特に2001年度の第32次調査および第33次調査ではバンテアイ・クデイ遺跡において274体の仏像が発掘され、千体仏石柱も発見されました。これまでアンコール遺跡研究約140年の歴史の中で初めての世界的大発見でありました。上智大学アンコール研修所は2002年10月に「上智大学アジア人材養成研究センター」と改称し、センターの本部がカンボジアに設置されました。

1．調査団の派遣

- ・第38次調査団（2003年03月01日～04月10日。41日間 予定）
- ・第39次調査団（2003年07月20日～09月20日。62日間 予定）
- ・第40次調査団（2003年11月25日～2004年01月10日。47日間 予定）
- ・第41次調査団（2004年02月25日～03月31日。45日間 予定）
- ・第42次調査団（2004年07月18日～09月20日。64日間 予定）
- ・第43次調査団（2004年11月27日～2005年01月08日 43日間 予定）

2．調査研究にご協力いただいている関係機関

カンボジア王国政府文化芸術省、王立芸術大学、プノンペン大学、アプサラ（アンコール地方遺跡整備機構）、シェムリアップ州、フランス極東学院（パリ）、ユネスコ（カンボジア）、ワールド・モノユメント・ファンド（ニューヨーク市）、奈良国立文化財研究所、日本大学、東北工業大学、帝塚山学院大学、金沢大学、奈良女子大学、京都府立大学、早稲田大学政経学部、酒井幸法律事務所、大阪市文化財協会、有田町歴史民俗資料館、東北大学、小杉石材店

3．現地における調査団の主な活動

- (1)建築班：アンコール・ワット西参道修復工事石積み作業中、遠隔地5大遺跡建築学予備調査と報告
- (2)地質班：共振法による石材診断、アンコール・ワット西参道地質調査、ヘリコプターによるカンボジア地形調査、遠隔地5大遺跡地質調査と報告、西バライ地区の水質調査
- (3)考古班：バンテアイ・クデイ遺跡274体廃仏発掘およびインベントリー作成、引き続き千

体仏石柱を発掘、東参道の予備調査、東参道脇小祠発掘調査、遠隔地 5 大遺跡考古学予備調査、サムロンセン考古調査

- (4)窯跡班：B1 窯の発掘調査・研究、B4 窯トレンチ調査、出土品の整理・目録作成・公式報告書作成・窯跡保存公開事業（アプサラ・奈良国立文化財研究所と共同事業）、プノン・クレーン丘陵の窯跡地調査、窯跡発掘のための中堅幹部人材養成プロジェクト
- (5)水利環境班：歴史水利都市調査研究、シムリアアップ川水質検査、トンレサップ湖水質検査、トンレサップ湖浮稲調査、湖水漁村の社会経済調査など
- (6)村落・社会班：5 ブームにおける農村調査、老人の社会活動参画プロジェクト、文化遺産教育、国立公文書館の教育関係資料調査、カンボジア社会復興調査・フランス植民地下のカンボジア社会研究、アンコール遺跡保存政策研究など
- (7)民話・伝統文化班：村落の口承伝承調査研究、寺院壁画調査研究、民話絵本 5 冊製作（2003 年 3 月出版予定）および民話を小学生の補助教材読本に作成するプロジェクトなど
- (8)遠隔地文化遺産調査班：コーケー、コンボンスヴァイ・プリヤカーン、サンポール・プレイ・クック、ベンメリア、バンテアイ・チュマール、プリヤ・ビヘアなど遺跡と周辺村落の社会経済調査
- (9)小学校リュック・ミッション班（1998 - 2002）（ボランティア団体と共催）：シムリアアップ州小学校へ手作りリュック・サック寄贈プロジェクト（鉛筆、ノート、消しゴム、サンダル、定規など封入）

4 . 人材養成プロジェクト（人的資源開発、地域住民啓発プロジェクト）

(1)学位取得のための大学院教育プログラム：8 名

Oum Ravy : (女、プノンペン大学クメール文学部卒)

2002 年 3 月上智大学大学院地域研究専攻第 1 号の博士号。現在プノンペン大学助教授

Ly Vanna : (男、王立芸術大学考古学部卒)

2003 年 3 月上智大学大学院地域研究専攻で第 3 号の博士号。現在上智大学アジア人材養成センター研究員

Hor Sukuntheary : (女、王立芸術大学考古学部卒)、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Neang Sivutha : (男、王立芸術大学考古学部卒)、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Nhim Sutheavin : (男、王立芸術大学考古学部卒)、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Keo Kinal : (男、王立芸術大学考古学部卒)、現在上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程

Tin Tina : (男、王立芸術大学考古学部卒)、現在上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程

Som Visoth : (男、王立芸術大学考古学部卒)、現在上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程

(2)2000・2001・2002 年度神奈川県海外技術研修事業：4 名

Chhean Ratha : (男、王立芸術大学建築学部卒)、コンピューターによる製図研修

期間：2000 年 5 月～2001 年 3 月

Som Visoth : (男、王立芸術大学考古学部卒)、博物館学陳列方法論

期間：2001 年 5 月～2002 年 3 月

Mao Sokny : (男、王立芸術大学建築学部卒)、コンピューター応用建築石積み研修

期間 : 2002 年 5 月 ~ 2003 年 3 月

Phoeun Sochea : (男、王立芸術大学建築学部卒)、コンピューターによる建築製図研修

期間 : 2003 年 5 月 ~ 2004 年 3 月

(3)2001 年度徳島県海外技術研修事業 : 4 名

Muon Mony : (男、王立芸術大学考古学部卒)

期間 : 2001 年 5 月 ~ 2002 年 3 月 場所 : 徳島県埋蔵文化財センター

(4)アンコール遺跡における長期中堅幹部研修プログラム (1998 年 ~ 現在)

考古学研修生 (スタッフ) 4 名 : Lam Sopheak(男)、Loeung Ravatthey(女)、Sok Kimsan(男)、Choeun Vuthy(男)

考古学研修生 (王立芸術大学生) 7 名 : Khut Sokhan(男)、Sok Keo Sovannara(男)、Song Sophy(女)、

Prak Sinath(女)、Em Socheata(女)、Khum Sathal(女)、Nhean Socheat(男)

建築学研修生 (スタッフ) 6 名 : Chahan Ratha(男)、Mao Sokny(男)、Phou Sochea(男)、Heng Kunthea(男)、

Sok Vannisay(男)、Am Sophanareth(男)

石工研修 14 名 : Hau Tuy(男)、So Sem(男)、Uoch Chit(男)、Suong Touch(男)、Proeng Ruos(男)、Chin Choch(男)、

San Soeuy(男)、Cham Brous(男)、Cham Prane(男)、Oung Savan(男)、Ly Sarine(男)、

Ran Kong(男)、Hot Houv(男)、Seng La(男)

アンコール・ワット西参道修復現場作業員研修生 30 名 : Leung So(男)、Im Ma(男)、Prim Key(女)、Mok Sean(男)、

Mol Lrouk(男)、Mean Samnang(男)、Cheum Moy(男)、Pouk Doun(男)、So Sambo(男)、Rem

Rath(男)、Sok Sareoun(男)、Cheng Brose(男)、Im Chea(男)、Peive Meng(男)、Phou Pi(男)、

Yeng Yet(男)、Houn Hoy(男)、Heng Tone(男)、Soy Yerng(男)、Chhy Ka(男)、Ry Ranth(男)、

Elut Eiye(男)、Main Noun(男)

(5)アジア・ユース・フェローシップ (AYF) プログラム (日本国外務省)

Ek Bunta(男) 1999 年上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程卒業。現在 王立芸術大学講師

(6)村人・小学生を対象としたバンテアイ・クデイ遺跡についての発掘現場説明会の開催

(1999 年 3 月、12 月、2000 年 3 月、8 月、2001 年 8 月の 5 回)

(7)アンコール・ワット清掃ボランティア (クリーニング・オペレーション。日本・カンボジア両国の学

生研修事業) の実施。第 1 回 1999 年 8 月 22 日 ~ 30 日 (35 名参加)、第 2 回 2000 年 8 月 25 日 ~ 31 日 (28

名参加)、第 3 回 2001 年 8 月 25 日 ~ 31 日 (35 名参加)、第 4 回 2002 年 8 月 26 日 ~ 31 日 (23 名参加)。

5 . 日本におけるシンポジウム・報告会等の開催

(1)国際シンポジウム「熱帯アジアにおける歴史水利都市と文化遺産—巨大遺跡を農業と「水」のかかわりから検証する—」主催行事 (2000 年 9 月 19、20 日)

(2)国際シンポジウム「アジアの文化遺産と 21 世紀—遺跡保存現場から文化遺産学に向けて—」主催行事 (2000 年 9 月 21、22 日)

(3)第 8 回「アンコール遺跡を科学する」(カンボジアの密林に眠る巨大遺跡踏査報告)

主催行事 (2001 年 4 月 21 日)

- (4)第9回「アンコール遺跡を科学する」(アンコール・ワットはどこへ行く)
主催行事(2000年2月26日)
- (5)「カンボジア研究会特別講演会:アンコール・ワット解明シリーズ全4巻完結を記念して」
主催行事(2002年7月11日)
- (6)「アンコール・ワットとIT技術」(第3回IT技術と文化遺産研究会)主催行事(2002年7月11日)
- (7)「緊急国際シンポジウム ここ掘れ274体の廃仏 カンボジアの国宝大発見」
朝日新聞と共催行事(2002年11月20日)

6. 出版物・報告書の刊行

- (1) 石澤良昭監修『カンボジアの農民』風響社2002年12月
- (2) 石澤良昭監修『世界遺産:カンボジア遺跡の光』小学館 2002年6月
- (3) 石澤良昭・大村次郷共著『アンコールからのメッセージ』山川出版社 2002年5月
- (4) 遠藤宣雄著『遺跡エンジニアリングの方法:歴史・文化・資源をどう活用するか』
鹿島出版会 2001年9月
- (5) 坪井善明編『アンコール遺跡と社会文化発展—遺跡・住民・環境—』
(「アンコール・ワットの解明」第4巻)連合出版 2000年12月
- (6) 片桐正夫編「アンコール遺跡の建築学」(「アンコール・ワットの解明」第3巻)
連合出版 2000年12月
- (7) 石澤良昭・坪井善明・遠藤宣雄共編『カンボジアの文化復興』第1号~第18著号(1984-2001)
- (8) 『アンコール遺跡を科学する』 No.1~9(1994-2001)
- (9) 盛合禧夫編『アンコール遺跡の地質学』(「アンコール・ワットの解明」第2巻)
連合出版 2000年4月
- (10) 中尾芳治『アンコール遺跡の考古学』(「アンコール・ワットの解明」第1巻)
連合出版 2000年4月
- (11) 石澤良昭・荒樋久雄・丸井雅子共著『アンコール・ワットへの道』
JTB出版部 2000年2月

以上